

**催芽に昨年よりも時間がかかる事例が見られます。**  
**浸種は温度計を設置して、積算温度をしっかりと確保！**  
**催芽中は芽の動きをこまめに確認し、しっかりと芽切れを！**

## 1 浸種時 ～積算温度を確保！～

- ①浸種水温は10～15℃とし、積算温度は120℃をしっかりと確保しましょう。水温が15℃を超えると「ばか苗病」が発生しやすくなるため、**必ず温度計を設置**してこまめに水温を確認しましょう。
- ②種籾に新鮮な水・酸素を供給するために、3日に1回程度は水を交換しましょう。水交換の際は種籾袋を揺すり、種子袋の内部まで新しい水を浸透させましょう。
- ③浸種完了の目安は、**籾全体に透明感があり、胚が白く透けて見える状態です**（図1）。

品種	積算温度 (水温)	浸種日数 (水温・日数)
うち品種全般 (はえぬき、つや姫等)	120℃	10℃・12日間/12℃・10日間



図1 浸種完了の目安

## 2 催芽時 ～芽切れをしっかりと確認！～

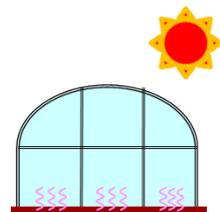
- ①催芽の目安は水温30～32℃前後で20時間程度ですが、本年はこれより時間がかかる可能性があります。催芽途中で芽切れの状況を確認し、**ハト胸が揃っていることを確認してから播種作業に入りましょう**（図2）。
- ②ただし、芽が長いと播種時に芽の損傷や播きムラが生じます。**芽を伸ばしすぎないように、催芽中は芽の動きをこまめに確認しましょう。**



図2 ハト胸状態  
(芽長約1mm)

## 3 置床前 ～苗床の地温確保！～

置床後の出芽を促すために、置床前にハウスやトンネルを閉めて**苗床の地温を高めておきましょう**。特に、無加温出芽の場合は、しっかりと地温を確保したうえで苗箱を並べ、適切な被覆資材の使用ときめ細やかな温度管理で、良好な出芽揃いを確保しましょう。



春作業始動！本田・農道・作業小屋等での農作業事故を防ぎましょう！